

第十四回労働調査報告

(神戸労働争議顛末第四報)

一、三菱の第二次休業

内燃機に於て先づ烽火擧げられてより茲に三菱に於ける労働争議は紛糾解けざる事約三旬の久しきに及び多數職工中には漸く倦怠の氣生せるものあり、其の意氣には前日の如き旺盛の狀なし。會社側に於て執拗に迫る職工側の要求を峻拒して其の鋭鋒を外らす一方、漸く意氣衰へんとする罷工團の狀勢を見て盛に暗中飛躍して結束の切崩に努めたるかの如き模様あり。其の結果職工側の實力恐るゝに足らずと見て取りしや否や知らず、二十日夜の幹部會に於ては二十二日の休業明け當日を如何にすべきかに就き協議せるが兎も角此際一應開門し其の結果如何に應じて臨機の處置を講ずる事に評議一決したるが如し。然るに斯く決議せる翌日即ち七月二十一日朝には左の如き揭示は各工場正門及び職工通勤路の要所々に貼出され、突如として無期休業は發表せられたり。

掲 示

工場秩序回復の見込無きに依り來る二十二日より當分の間休業す(休業中は日給及手当支給せず) 爲念現行者則を遵守し誠實に